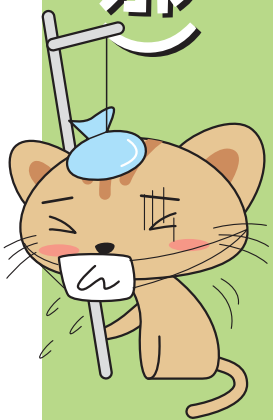


冬に多い

猫ウイルス性 鼻気管炎(猫風邪)



人が風邪をひくように猫も風邪をひきます。

40度前後の発熱と激しい咳、クシャミをして、多量の鼻水や目ヤニを出します。とても強い感染力があり広がりやすく重傷になったり、特に抵抗力の少ない子猫は手当が遅れると**死亡する**事もあります。



原因

猫ヘルペスウイルスの感染によりおこります。大抵はクシャミによる飛末感染と猫ちゃん同士のグルーミングによる接触感染です。これらのウイルスは体内に入っても必ずしも症状が現れるわけではな

く、栄養不足や体が冷えたり、ストレスによって発病します。



症状

初期には、クシャミ、涙結膜炎、40度前後の発熱、元気や食欲がなくなります。しばらくすると、青っぱなが固まり鼻腔をふさいでしまい開口呼吸をします。

しだいに嗅覚も失われ、食餌も水もとれなくなり脱水、衰弱します。小さい猫ちゃんは特にですが、肺炎を併発し死に至ります。

☆放っておくと、慢性鼻炎、副鼻腔炎、蓄膿症になってしまいます。



予防

ワクチンを接種しておくことが第一です。ワクチンは子猫が生後8週齢くらいで1回目を接種し、更に3〜4週間あけて2回目、次回からは1年に1度の追加接種でよいでしょう。

ワクチンを接種している猫ちゃんでも感染して少しのクシャミや鼻汁が現れますが、全身状態はそれほど悪化せず軽くすみます。

人間を介して間接的に感染することもあるので、感染している猫ちゃんに触った後は手洗い、着替えをしましょう。

たけくま動物病院

動物看護師 須合 陽子